

2019年度 通常総会開催



発行所
神奈川県弁護士会
横浜市中区
日本大通9番地
☎045-211-7707
URL <http://www.kanaben.or.jp/>

5月30日、関内ホール小ホールにて令和最初の通常総会が開催された。日弁連前副会長の竹森裕子会員による日弁連会務等報告、芳野直子前会長による退任の挨拶、前年度理事者並びに川崎及び相模原の前支部長への感謝状贈呈が行われ、その後、開会宣言がなされた。

【伊藤信吾会長の所信表明】

- ①市民の司法アクセスの整備・充実
「法律相談センター」「成年後見センター」「成年後見センターみまもり」など各制度内部の連携や、自治体との連携を強化し、当会の制度や活動について県民へ一層の周知に注力し、アクセス環境を充実させたい。
- ②人権擁護活動
貧困格差、パワハラ、外国人労働者問題などが叫ばれる情勢下でこそ、他者に思いを寄せることの重要性を想起し、少数者の立場を尊重して地道に活動する会を目指す。
- ③会内組織の見直し・会館補修
ペーパーレス時代に適した会内組織の在り方を模索し、未着手だった当会会館の外壁補修やサッシ修繕等も実施したい。
- ④全域的活動支援
県内全域の法的ニーズに応えられるよう、当会各支部との連携を強化して活動を支援できる体制作りに努める。
- ⑤おわりに
男女共同参画の推進や谷間世代（司法修習中に給与及び修習給付金の支給を受けられなかった新65期〜70期の会員）への支援など新たな取り組みを推進したい。

伊藤会長ほか今期執行部

【会務報告】

- 1・一般会務報告
豊島健司前副会長より、前年度中の活動として、県内全自治体訪問、人権救済申立事件における刑事収容施設等での身体被拘束者への事情聴取に伴う日当支給制度の成立、谷間世代への支援金支給制度の成立、男女共同参画基本計画の採択、「成年後見センターみまもり」の設立などについて報告がなされた。
- 2・委員会報告
①刑事弁護センター運営委員会
当番弁護は配点当日「直ちに接見」が原則。この点は元来より一貫しており何らの変更もない旨を再確認して臨んで頂きたい。
- ②裁判官評価検討・弁護士任官推進委員会
裁判官評価アンケートを当会HP会員より県民・市民に頼られる会を目指して全力で取り組むもので会員各位のご協力をお願いしたい。
- ③公設事務所支援委員会
かなバプ創設10年目を迎え、本年は赴任弁護士壮行会のほか記念行事も予定しているのに参加したい。
- ④民事裁判手続運用委員会
次回の民事裁判懇談会では民事裁判手続IT化を取り上げるので多くの会員に出席してほしい。
- ⑤災害対策委員会
大規模災害発生時の会員安否情報確認システム（ANPICS）の登録者がまだ半数程度なので至急の登録をお願いする。
- ⑥人材育成支援委員会
最高裁見学や日弁連事務次長の活動紹介などを企画している。今後も日弁連事務次長や司法研修所教官などを当会から輩出したいので適任者の情報提供もお願したい。

臨時総会開催のお知らせ

日時 2019年7月31日（水）13時
場所 横浜情報文化センター 情文ホール

【議事】

- 第1号議案
2018年度（一般会計・特別会計）収支決算承認の件
池本康次前会計担当副会長より、一般会計については黒字決算となったが、本年度より谷間世代への支援金支出が開始されること、司法試験合格者の漸次減少に伴い今後の会員数及び会費収入の伸び率も低下が予想されること、築48年となった当会会館もいづれ建て替え等が必要となることなどを踏まえ、財政に余裕があるとは言えない旨の説明がなされた。
- 第2号議案
2019年度（一般会計・特別会計）予算の件
青山良治会計担当副会長より、当会の予算は年度途中で補正予算を組まずに済むよう収入を慎重に見積もる一方で支出に余裕を持たせるため、赤字予算を組んだ上で最終的には黒字決算となることが多いが、本年度は谷間世代への支援金やWindows7の保守終了に伴うPC関係費用など多額の支出があるので、昨年度以上に赤字幅の大きな赤字予算を組んでおり、例年以上に支出に謙抑的となる必要がある旨の説明がなされた。
- 第3号議案
2020年度（一般会計・特別会計）4・5月分暫定予算の件
青山良治会計担当副会長より、当会の予算は年度途中で補正予算を組まずに済むよう収入を慎重に見積もる一方で支出に余裕を持たせるため、赤字予算を組んだ上で最終的には黒字決算となることが多いが、本年度は谷間世代への支援金やWindows7の保守終了に伴うPC関係費用など多額の支出があるので、昨年度以上に赤字幅の大きな赤字予算を組んでおり、例年以上に支出に謙抑的となる必要がある旨の説明がなされた。
- 第4号議案
綱紀委員会委員、懲戒委員会委員及び予備委員選任の件
任期満了などを受けての後任等に関するもので、全会一致で提案どおり可決された。

質問する堀口憲治郎会員

司法の世界でも、IT化の流れが止まらない▼横浜地裁では、争点整理手続のウェブ会議化に向けて、模擬裁判を積極的に実施している。また当会では、委員会会議の必要資料を、原則オンラインで配布するようになった。新たにタブレット端末を準備した弁護士も少なからずいるようだ▼先日放映された、かの大学病院医療ドラマでは、以前の放送版で紙のカルテを修正液で書き換えていたシーンが、現代に合わせ、仮登録状態の電子カルテを書き換えるように変更されていた。これはドラマの話に限らない。今後は改ざんをチェックする側でも、システムの知識が必要になる▼個人のコンピュータ利用が当たり前の社会となったが、それでもまだ、ウェブページ閲覧やメールの送受信だけという人が多く、様々なアプリを駆使する各種の情報技術は、一般的普及へのハードルがそれなりに高いように感じる。今なお残る情報格差を、この先どう克服するか▼新たな技術を導入するだけでなく、それらの活用支援を併せて行うことも重要だ。技術と知識は、人から人へと伝えられる。どれだけ文明が進んでも、人間同士のコミュニケーションが大切なことは、言うまでもない。

山ゆり

（新倉 武）

坂本弁護士一家殺害事件を

深く知り語り継いでいくために

弁護士業務妨害対策委員会 東京弁護士会との経験交流会

3月11日、当会会館で、毎年恒例の東京弁護士会の弁護士業務妨害対策特別委員会（東弁委員会）と当会の弁護士業務妨害対策委員会（当委員会）との経験交流会が開催された。テーマは「オウム真理教の一連の事件そして坂本弁護士一家殺害事件を知るために」である。オウム真理教の被害救済等の活動をしてきた坂本堤弁護士が、オウム真理教により家族とともに殺害された事件が起きたのは、平成元年11月4日であり、令和元年の現在も最悪の弁護士業務妨害事件として記憶されている。今回の経験交流会は、参加者からの口頭での質問にその都度回答者が答えていく質疑応答会の形で進めることとした。

回答者は、岡田尚会員、武井共夫会員、滝本太郎会員、小島周一会員、小野毅会員、影山秀人会員（以上、当会所属）、伊藤芳朗弁護士、瀧澤秀俊弁護士、中村裕二弁護士（以上、東弁委員会所属）の9名である。いずれも、坂本弁護士と家族を救う全国弁護士会の会やオウム真理教被害対策弁護団等で、オウム真理教の一連の事件及び坂本弁護士一家殺害事件等を中心となつて第一線で取り組ん

質疑応答会の回答者たち

その後に行われた懇親会にも回答者全員が出席し、更に忌憚のない本物の話を聴くことができた。坂本弁護士は当会の会員であつた。今回の経験交流会で、当会会員が坂本弁護士一家殺害事件を深く知り、語り継いでいかなければならないことを再認識し、そのために当委員会が重要な役割を果たしていかなければならないと痛感した次第である。

（弁護士業務妨害対策委員会委員長

苑田 浩之

（弁護士業務妨害対策委員会委員長

苑田 浩之

YOKOSUKA DAWN

—横須賀の夜明け—

横須賀支部

支部
だより

もっと光を!!

相模原支部

猿島という島がある。さるしま、と読む。東京湾に浮かぶ唯一の無人島であり、横須賀の裁判所や検察庁、警察署からも見ることができる。明治時代より東京湾要塞の一角として重要な役割を担っていた島である。住所は、神奈川県横須賀市猿島である。

モンキー・D・ルフィという男がいる。もんきーでいーるふいと読む。レッドラインとグランドラインで区切られた4つの海のうち東の海（イーストブルー）のフーシャ村の出身であり、「海賊王におれはなる」と宣言している者である。言わずと知れた大人気まんが・アニメ、「ONE



猿島改めモンキー・D・ルフィ島

PIECE」（ワンピース）の主人公である。一体何を言っているのか、と戸惑われた方が多いと思う。無理もない。支部だよりにこんな記事が載っていたら私も戸惑うと思う。当然であるが、唐突にこんな話をしたのは理由がある。実はこの夏、猿島が、モンキー・D・ルフィ島

に改名するのである。嘘ではない。横須賀市のホームページにも載っている。いやしくも弁護士なので証拠に基づいて述べている。知っている人は知っているが、私は無類のまんが好きである。自宅にあるまんがは2000冊を超えてからは数えていない。そんな私の中の何かが「横須賀のことを書くなら猿島とワンピースのことを書け」と叫んでいる。これまで来たらもう、その勢いのまま書きたいと思う。

ワンピースのアニメ開始、すなわちルフィが初めてテレビで「海賊王におれはなる」と宣言してから20周年だが、横須賀市が「カレーの街よこすか」を宣言してからも20周年である。これを運命だと呼ぶのは早計だろうか。他にも、横須賀には米海軍基地があるが、ワンピースの世界において、海軍は、物語上必要不可欠な存在である。このように横須賀とワンピースは深いつながりがあるのである。

横須賀のことを書くなら猿島とワンピースのことを書け」と叫んでいる。これまで来たらもう、その勢いのまま書きたいと思う。

ワンピースの話ばかりしているときさすがに怒られそうなので、横須賀支部の活動についても書くことになったが、もう紙幅がないので、おとなしく怒られることにします。

（会員 稲田 裕一郎

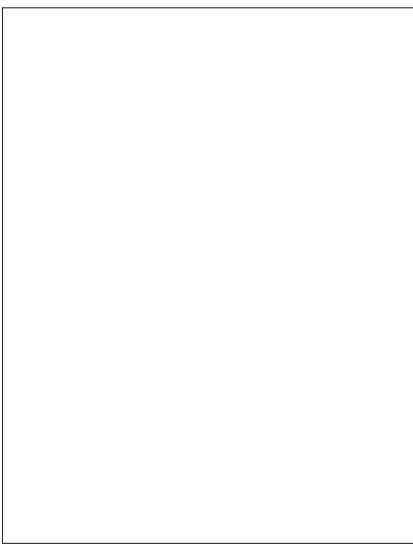
※編集部注：改名はあくまでこの夏の期間限定です。

相模原支部には、非公式の劇団、最近では「コント部会（又はお笑い部）」が存在します。劇やお笑いという、まじめな方が多い弁護士会では、「ふざけている」「そんなことして意味があるの?」という疑問をもたれる方も多いようなので、今回は、まじめにその活動内容を紹介したいと思ひます。

最初に当支部の会員による市民向けの「劇」ないし「コント」が行われたのは、今から約14年前にさかのぼります。その時から現在まで、若手会員を中心に、支部会員が関係する市民向けのイベント等で「弁護士の仕事」「裁判」「法テラスの使い方」「新しい法

律の内容」などを劇やコント、大喜利などに仕立ててきました。こうした試みは、弁護士会のイベントでありがちな「お堅い」「専門用語が難しい」「わかりにくい」といったイメージを覆し、来場する市民、他団体、市職員、法律専門家から、「おもしろかった」「わかりやすかった」と大好評を博しています。

それ以外にも、「自分たちのために、弁護士さんが道化のようなことをやってくれていて驚いた」「これまで敷居が高かった（偉そうにふんぞりかえっているイメージがあつた）けど、とても親しみが湧いた」「本当



相続と掃除、どちらもホウキが重要です

に自分たちのことを考えてくれているんだと実感できて信頼できた」という感想を持つ市民も非常に多く、実は、非常に有意義な試みなのです。市民の身近に信用できて頼れる弁護士がたくさんいることは、市民にとっても、我々にとっても、理想的なことです。

弁護士会の活動が広く市民に理解され、親しみと信頼をもってもらうために、当支部のみならず、他の支部、そして本部でも、コント部が結成され、活躍するようになること、そして、「もっと予算を!!」、それが私たちの切なる願いです。

（会員 水谷 里枝子

研修会

刑事弁護

あなたの情状弁護大丈夫？

講師の赤木俊之弁護士

5月24日、刑事弁護センター運営委員会主催で、和歌山弁護士会所属の赤木俊之弁護士を講師に招き、標記テーマで研修会を行った。刑事事件では避けられず、情状弁護という考え方の下に、とある窃盗事件を題材にして、接見で被疑者から何を聞き取るのか、情状証人として出廷することを求める被疑者の親族にどのような説明をして理解を得るのかについて、参加者との質疑応答を踏まえた講義がなされた。また、後半では、講師

「情状弁護」に対する会員の関心は高く、60期代を中心に62名という多数の会員が参加した。研修会前半では、量刑に資する情状弁護と被疑者・被告人の更生に資する情状弁護という考え方の下に、とある窃盗事件を題材にして、接見で被疑者から何を聞き取るのか、情状証人として出廷することを求める被疑者の親族にどのような説明をして理解を得るのかについて、参加者との質疑応答を踏まえた講義がなされた。また、後半では、講師

が設定した具体例を基に、どのような弁護方針を立てるのか、薬物事犯、窃盗、性犯罪という各犯罪類型において、被疑者・被告人を理解するためにどのようなことに気を付けるべきか、被疑者・被告人に対する処分をできるだけ軽くし、更生につなげるにはどのようなことを検討すべきかについて、講義がなされた。一見すると安易に処理しがちな（そして、同種前科多数のケースではあきらめがちな）情状弁護に関し、目の前の被疑者・被告人を理解した上で、関係者・関係機関の協力を得ながら環境調整を図ることの大切さを感じた。他にも、参考となる書籍や講座（日弁連eラーニング）が紹介されるなど、刑事事件を担当する弁護士にとって大変有益な研修会となった。（会員 永合 大輔）

川崎市で登校中の児童らが殺傷された事件を発生当初から取材している。

何の落ち度もない人の命が無残に奪われる事件が後を絶たない昨今、取材をする側として感じるのは、良くも悪くもメディアが「批評される」時代になったということだ。

取材現場に赴けば、多くの人がスマートフォンのカメラを向けて、実況中継などをしていいる場合もある。また、会見の場も放送メディアが生中継をすれば、インターネット上などで記者のする質問や言動に

対する反応が逐一寄せられる。当然、見られて恥ずかしい

と、被害者や遺族の存在が必ずあり、その気持ちに土足で

実である。

こうしたことも背景に、事件や事故があると被害者支援の観点で弁護士会が関わることも多く、ご遺族とメディアの間に入って難しい交渉ことをしていただくケースも少なくない。

傷つく被害者の思いを忘れず、社会に警鐘を鳴らす報道を目指すためにはメディアと弁護士、さらには弁護士会との信頼関係もより一層大切になってくると思う。

(NHK横浜放送局記者

清水 彩奈)



取材をしているつもりはないが、事件や事故の取材となる

踏み込んでいいるのではないかと、という批判があるのもまた事

17年目にして分かること

会員 城田 孝子 (55期)

常議員会

4月から初めての常議員を務めている。弁護士登録17年目、同期には既に副会長経験者もいるから、遅ればせながらのデビューである。常議員会のイメージは、とにかく大量の議案、長時間の会議、喧々諤々の議論であるが、本原稿を書いている時点で今年度の常議員会はまだ3回、荒れる気配はまだない。が、これはきつと嵐の前の静けさ

委員会内で議論し、これは会長声明として世に出すべきだということになると、じゃあ誰が常議員会で説明するかという話になる。若手委員が委員長とともに説明に立つことが多く、私も何度かその役を担ったのであるが、「消費者のために」という思考と熱意一色だった若い頃は、常議員会の反応にかなり戸惑った。自分では良い声明案

だ、これは絶対に必要だ、反対されるはずがないと思いついて入っているのであるが、会が発する声明となれば影響力は甚大であり、他の分野や様々な立場の人への配慮もしなければならぬ。当時はその辺がピンと来なかったの、でもそもそ会長声明を出すことに反対だという意見をされた時は、意味が分からずばっかりとしたのを覚えている。それなりに年をとり、ようやくあの意見の意味が分かった気がする。会としての目線を持ちつつ、それぞれの分野の熱を持った若手会員がますますやる気になってくれるような、絶妙な発言ができたらいいなと思っている。

理事者室

だより

早や2か月？
あと10か月？

副会長 徳田 暁

副会長となって早くも2か月が経過したというべきか、あと10か月もあるというべきか。右も左も分からぬまま、あつという間に時が過ぎていきます。シワジワとやるべきことが積み重なり、いつの間にか、向こう何週間も寸分の隙間のない手帳になっていることに愕然としているところです。

今期の理事者は、今のところ、伊藤会長のおおらかな人柄もあってか、できる限り不要な負担は回避し、必要な仕事は分担しようということになります。シワジワとやるべきことが積み重なり、いつの間にか、向こう何週間も寸分の隙間のない手帳になっていることに愕然としているところです。

で良い経験です。後進の副会長が続きやすいよう、良い先例を残していくことも、今期の役割かなと思っています。委員会については、委員長を務めていた高齢者・障害者の権利に関する委員会を始め、人権擁護委員会、憲法問題対策本部、民事介入暴力対策委員会など、研修会等の

企画や会長声明の発出などが多い分野を担当していますので、多くの市民のためになる企画、適時適切な会の意思表明を実現していきたいです。また、東京五輪開催年の2020年9月に当会主催で開催される関弁連定期大会シンポジウムのテーマに、「スポーツと法」が採用されました。スポーツ法研究会出身理事者として、同大会が成功するよう準備に尽力したいと思っています。会員の皆様におかれましては、1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



情報セキュリティを考える

はじめましょう

その17 写真データの保護

私は、アマチュア写真家です。写真データの保護については気を遣っています。しかし、意外と家族写真などのデータの保護については無関心の人が多いのではないかと危惧しています。

最近、デジタルデータをプリントせず、そのまま写真データとして外付けハードディスクに保存しておくスタイルが増えてきています。でも、外付けハードディスクのデジタルデータは、一瞬で消えてしまうことがあります。消えてしまったら復元は極めて難しいし、高額な費用がかかります。特に、家族写真が無くなると家族の歴史さ

え思い出すのも困難になります。家族写真のデータの保護は喫緊の問題だと私は思っています。

まず、外付けハードディスクの耐久期間は、一般的には3年と言われ、3年ごとに買い換えるのがベストと言われています。ただし、これを厳格にやることは難しいでしょう。次に、ハードディスクを2つ装備して同じデータをコピーするミラーリング機能がついているハードディスクは、お勧めです。2TBのミラーリング機能の外付けハードディスクは、2万円くらいです。

これらを厳格に行うことは難しいかと思いますが、どうしても残しておきたい写真データは、1枚5MBくらいに圧縮して(プリントするには5MBくらいが必要です)、DVD等に保管するのが現実でしょう。また、データをクラウドで保管するという方もおり、1TBのサービスを提供しているサービスもあります。が、パスワードを厳格にしなければ、情報漏洩のニュースもあり、家族写真の保存に適しているか疑問です。

また、最近安くなってきたSDやフラッシュメモリーなども、一時的保存には向いているかもしれませんが、長期保存には不向きという意見もあります。長期保存用光ディスクに保管する方法もありますが、大げさか

もしれません。私は、どうしても残しておきたい家族写真は、プリントしてアルバムに保存する習慣を付けるのがよいと思いますが、どうでしょうか。

(会員 山本 安志)

①外付けハードディスクには寿命があるので注意

②その他の保存方法についてもよく検討を

デスク 吉田 正穂
記者 大崎 徹
新倉 武
濱崎 亮
井上 晴彦



筆者はカメラマン (またもや)

当時、今年一番の暑さを記録した5月25日、八景島シーパラダイスの近くにある杉田テニスコートで、「横浜法曹テニスクラブ会長杯・副会長杯」が開催された。

当クラブの会長杯・副会長杯は、宮代洋一元会員が会長、大友秀夫会員が副会長の時に始まった当クラブの

今年も豪華カップとレプリカカップをめぐって、大勢のメンバーが集結するはずだった。開

さて、結果であるが、会長杯は渡辺亨氏(東京弁護士会所属)・佐藤武晴会員ペアが、副会長杯は高原会員・佐藤裕会員ペアが、令和時代の記念すべき初代優勝ペアとなった。両佐藤会員が豪華カップを持ち帰ることに

なり、「どうやって帰ろうか」「どこに置こうか」と頭を悩ませていた。

当クラブでは練習会、他団体との試合、懇親会等多くのイベントがある。経験者は勿論、初心者の方も大歓迎である。テニスを通じて日常にスパイスを加えるのはいかがだろうか。入会等の問合せは佐藤裕会員まで一報を。

(会員 井上 晴彦)

日常にスパイスを

会長杯・副会長杯

熱戦、熱戦、また熱戦

将棋指導対局会



5月18日、この時期恒例のプロ棋士による将棋指導対局会が、当会川崎支部にて開催された。今回は、森下卓九段、中村真梨花女流三段及び鈴木環那女流二段をお招きし、9名の会員等が参加した。

筆者は角落ちでの挑戦。まずは中村女流三段にお手合わせを願った。今年度に新設された女流棋戦でベスト4に進出している実力者を相手に、少し緊張しつつも、積極的に攻めようと駒を前に動かしていく。近年流行の雁木戦法を採用して、将棋盤の中央からの敵陣攻略を図った。途中で「マリ力攻め」と名高い中村女流三段の厳しい攻めを受けるも、何とかしのいで押し切り、最後の勝利

につなげた。一局を通して読みが冴えたのは僥倖であり、「手合い違いでした」とのコメントを対局後に頂戴したのは、まさに望外の結果であった。次は、こちらも強敵の鈴木女流二段と対局。今秋に海外留学を予定している女流棋士は、早めに右の銀将を前に繰り出し、積極的な攻めの姿勢を見せる。こちらは再び雁木戦法を採用し、相手の攻めを牽制しつつ攻勢に転じた。しばらく筆者優勢の局面が続くが、途中でミスがあつて混沌とした状況に。最後は、鈴木女流二段の寄せに筆者が応手を誤って詰まされ、悔しい敗戦となった。周囲の参加者も、対局開始直後は雑談しつつ指していたが、手数が進むにつれ徐々に無言になっ

ていった。筆者が見るにどれも熱戦で、その中でうまく指せて最終的に勝った人もいれば、十分に読み切れずに負けた人もいたようだが、いずれにしても有意義な経験となっただろう。

終了後は、川崎支部近くの和食料理店にて懇親会が開かれた。藤井聡太七段の活躍等で注目を集める将棋界の話題で盛り上がり、そして以前に森下九段に高校の将棋部で指導を受けた人が参加者にいたことから、昔話にも花が咲いた。

最後になったが、お越しくださったプロ棋士の方々に心より感謝し、今後のご活躍をお祈り申し上げる。

(会員 山口 陽)

編集後記

猿島の改名のみならず、7月5日からは「京急線 真夏のONE PIECE列車」という企画が始まり、一部の駅名看板も変更されるそうです。

本号入稿時点、まだ梅雨入りしたばかりですが、このようなニュースを耳にすると、「夏休みへのワクワク感」が年甲斐もなく呼び起こされます(笑)。

熱気あふれる指導対局の様子